

# あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.144 2006.5.1

民俗 VS 考古 !!

人々の祈りについて異分野から考える。  
それぞれの「祈りのカタチ」とは？



## 博物館開館100周年・考古博物館開館20周年記念 特別展「祈りと偶像」

- 会 場 本展『祈りと偶像』松本市立博物館  
分展『土偶に願いを～縄文人のくらしと祈り～』松本市立考古博物館
- 会 期 平成 18 年 5 月 27 日①～6 月 25 日①  
会期中無休（ただし考古博物館は月曜休館）
- 観覧料 大人 300(200)円・小中学生 150(100)円  
( )は 20 名以上の団体料金  
※考古博物館分展は常設展観覧料でご覧いただけます(小中学生は無料)。

### イベント情報

記念講演「偶像に込められた人々の祈り(仮題)」

- 日 時 平成 18 年 6 月 10 日① 午後 1 時 30 分～
- 会 場 松本市立博物館講堂
- 講 師 宮下 健司氏(長野県立歴史館)  
聴講無料(観覧券が必要です)
- 問合せ 松本市立博物館 0263-32-0133

体験講座「土偶をつくろう」

- 日 時 平成 18 年 6 月 3 日① 午前 9 時～午後 3 時
- 会 場 松本市立考古博物館
- 問合せ 松本市立考古博物館 0263-86-4710

### もくじ

- 誌上博物館◇博物館開館100周年・考古博物館20周年記念特別展『祈りと偶像』……2～5
- 博物館のノートから◇博物館100年モノ語り・その2……………6
- 博物館TOPICS◇「松本まるごと博物館コーナー」を博物館各施設に開設……………7  
松本市立博物館に新しく仲間入り「旧制高等学校記念館」……………7
- ひとの動き……………8
- ガイドコーナーはんでんぼく……………8

## 博物館開館100周年・考古博物館開館20周年記念 特別展『祈りと偶像』

### 1 はじめに ～祈りとは～

「祈る」とは、どのような行為なのでしょうか。一般的に思い浮かべるのは、神社や寺院などのお参りではないかと思います。そうしたお参りは、目的もなく行うものではないでしょう。何か願い事があるから、お参りをするのだと思います。

近年では、初詣などもファッションの一部のように形骸化しているきらいはありますが、本質的には、新年も、あるいは新年こそは良い年でありますように、と祈る行為であることには違いがないと思われます。

そこで問題です。「皆さんは、誰にお祈りしているのですか。誰にお願いしているのですか。」と聞いてみます。きっと「そんなの仏様や神様に決まっているよ。」という答えが返ってくることは容易に想像できます。

さらに問題です。「その神様や仏様は、どんな姿をしているのですか。」と聞いてみます。「神様や仏様の姿は、お寺や神社の中にある神像や仏像だよ。」という答えが返ってくることも、想定内です。

さらに、想定外の問題です。「では、神様や仏様は、本当にあのような姿ですか。見たことはありますか。」と問われると、多くの人は答えに窮するかもしれません。なぜなら、神様や仏様を、実際に見たことのある人はおそらくいないからです。



祈りの風景 何を願っているのでしょうか（本町2丁目）

### 2 祈りを表した偶像

神様や仏様を見たことのある人は、おそらくいないと思います。仏教の始祖は、紀元前5世紀頃に古代インド北部、現在のネパールで生まれたゴータマ・シッダッタ（仏陀）と呼ばれる人物ですが、真相はよくわからないと言われています。神様・神道は、元来が自然に対する信仰から発生していますから、実体はありません。ではどうして、見たこともない神仏が、像となったのでしょうか。

一つの考えとして、宗教として広まりつつあった

仏教は、信仰の対象とされていた仏陀を、西方のギリシャ・ローマ文明の影響を受けて、仏像としたのではないかということです。仏教は中国に伝播し、さらに朝鮮半島を経て日本へと伝わりました。日本においては古代神道に影響を与え、実体のない神様を、仏像に似たものとして偶像化したのではないかと考えられます。

もちろん、これがすべてではないと思いますが、人間は、目に見えない信仰対象を偶像化することによって、誰でもわかりやすい形にしたのでしょう。そして宗教者は、偶像を使って布教活動をしていったのでしょう。

しかしそのような偶像化は、なにも宗教に関してのみ行われたのではないといえるのです。

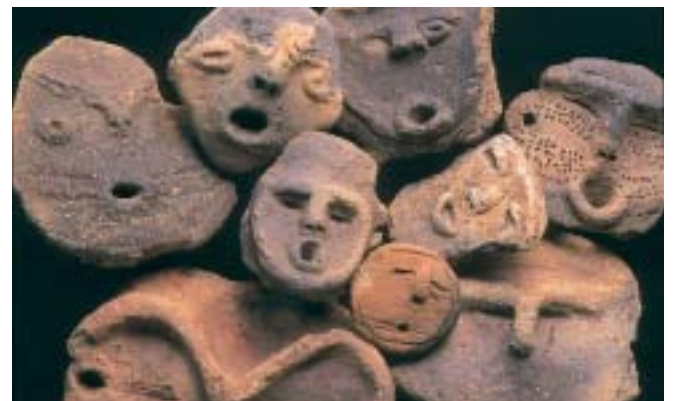
### 3 失われた「いにしへの祈り」

縄文時代の遺跡から、土偶と呼ばれる土製の人形が発掘されることはよく知られています。アニメのキャラクターなどにもなっていますから、子供さんでも知っているかも知れません。近年では、茅野市の縄文のビーナスや、仮面の女神とも呼ばれる、素晴らしい土偶が発掘され、注目を浴びました。今から4000年近く昔の縄文時代の人たちは、何のために土偶を作ったのでしょうか。

### 4 縄文時代のくらしと祈り

縄文時代の人々は、基本的には自給自足の生活を送っていたと考えられています。また、低い医療水準から、乳幼児や小児の死亡率も高かったことは間違いないでしょう。自由気ままな暮らしをしていたと考えられがちですが、その実情は厳しかったと思われます。そのような暮らしの中、いろいろな祈りがあったことは、想像するに難くはありません。

この点については、考古博物館での分展「土偶に願いを～縄文人のくらしと祈り～」で取り上げます。



いろいろな顔をした土偶たち（エリ穴遺跡）

## 5 土偶に込められた祈り

縄文時代の土偶とは、どのようなものだったのでしょうか。それを解く鍵は、その形にあります。

土偶の多くは、女性をかたどっています。縄文のビーナス、仮面の女神と呼ばれるように、女性の姿、特に妊娠している様子を示しています。

土偶の用途については、いくつかの考えがありますが、最も代表的なものとしては、身代わり・お守り的な役割ではないかと考えられています。理由としては、完全な形で見つかることが少なく、頭や足が、ばらばらで見つかることが圧倒的に多いからです。もちろん、長い年月の間に壊れていったためという理由も十分に考えることはできます。

しかし、松本市内田のエリ穴遺跡で見つかった人面付土版の見つかった様子は、それが単に自然に壊れて捨てられたものではないことを示しています。

この土版は、土偶と同じように女性の全身をかた

どったものです。しかも一部には赤く色がつけられているという、特殊性が感じられます。



人面付土版と、土版が見つかった様子（エリ穴遺跡）

問題は、この土版がどのような状態で見つかったかということです。完全な形で見つかったものではありませんでした。半分に折れた形で見つかったのです。しかも、それを重ねて埋めたのではないかと考えられる出土状況でした。意図的に半分に折って埋めたのでしょうか。

また、茅野市の、仮面の女神といわれる土偶も、墓跡と考えられる穴のすぐ近くから見ついています。出生率や幼児の生存率が低かった縄文時代、もしかすると、亡くなった我が子を嘆き悲しんだ母親が、再び妊娠して、自分のお腹の中に新たな命として宿ることができるようにとの願いを込めて、お守りとして土偶を作ったのかも知れません。そして、わが子の墓と一緒に埋葬したのでしょうか。

## 6 石棒に込められた祈り

土偶と同じく、縄文時代の遺跡からは、男性の性器をかたどった石棒とよばれるものが見つかります。江戸時代以降、現在も見られる道祖神の、陽石にも非常によく似ています。後述するオンマラさまのように、新たな生命の誕生に対する祈りの産物であった可能性があります。近世の民俗事例では、木製のオンマラさまを、若者達が持って、若い女性のところや新婚の家庭に投げ込む、などの祭りとして残っていたようです。一見卑猥なようにも見えますが、新たな生命への、聖なる祭りだといえるのです。



石棒は何に使われたのだろうか（エリ穴遺跡）

ですから、よく似た形をした石棒も、民俗事例などから考えると、似た用途であろうと考えられるのは、不自然なことではないと思われます。

もちろん、縄文時代には、別の用途があったとしても、それも不思議なことではありません。

## 7 さまざまないにしへの祈りの形

縄文時代の遺跡から見つかる不思議なものは、土偶や石棒だけではありません。

粘土や石で作った耳飾りや、ヒスイの首飾り、とても小さなミニチュア土器など、どのように使ったのかわからないものはたくさんあります。

これらのものは、日常生活に使うものとは考えられないことから、祈りや願いのためのマツリの道具と考えられています。しかし、実際は何に使われたものであるのかは分からないのです。

しかし、その用途を考えるヒントは、現代に生きる私たち自身の中にあるかも知れません。なぜなら現代において行われているいろいろな祭にも、さまざまな不思議な道具が使われています。その意義を考えていくと、何か答えが出てくるかも知れません。

（考古博物館 学芸員 澤柳秀利）

## 8 祈り続ける

いにしえの人々は、土偶や石棒に祈りましたが、その後の時代の人々は、何に祈っていたのでしょうか。そして、科学の力に支えられて現代を生きる私たちは、もう祈りなどしないのでしょうか。そんなことはありません。どんなに機械が発達しようと、医学が進歩しようと、コンピューターを使えるようになるうと、私たちは生き物である限り、祈る心を失うことはないのです。

## 9 雨乞い

松本市の寺社には、人々が古来から信仰してきた神々のイメージを伝えてくれる神像や面が残されています。筑摩神社に伝わる陵王（りょうおう）の面と納曽利（なそり）の面は、鎌倉時代の作とされるものですが、“雨乞い”の神事の際に行われた伎楽奉納に使われました。全面黒漆塗りの上に金粉や朱の彩色を施した木彫りの面です。いにしえの人々にとって森羅万象が神と成り得たのでしょうか、特に水に対する畏敬はたいへんなものだったのです。この筑摩神社の二面は、舞いの面としての美しさとともに、天変に翻弄された人々の恐れや期待も象徴しているように見えます。

## 10 山岳信仰、厄払い

牛伏寺は諏訪高島藩の領で廃仏毀釈を逃れたため、貴重な仏像・神像が残されました。その中に、一對の男神座像があります。鉢伏山に所在することから、山頂に鉢伏権現を祀り、その御神体であったと伝えられています。山岳信仰の影響を受けた、平安時代後期の木像です。

祈りの対象は、大いなる自然や生命から、人の一生に繰り返される関心事へも広がっていきます。牛伏寺には、すでに永禄年間（1558～70）に使われていた一對の追儼面が現存します。儼（おにやらい）＝鬼やらい、つまり悪鬼を追い詰めることで、厄病神を払うという行事（儀式）に登場した面です。その昔、厄除けに集った厄年の男女から追われる鬼役の者がつけた面で、強面の赤鬼、青鬼なのですが、丸みのあるユーモラスな表情もたたえています。

## 11 雑祭りの押絵雛

松本の雑祭りでは、今日定番の立体型座り衣装雛のほかに、布製の押絵を竹串で立たせる押絵雛や、その他の人形をとこ狭しと雛壇に並べていました。押絵雛の題材としては、歌舞伎の登場人物、歴史上



押絵びな

の人物が一般的ですが、松本では加えて内裏雛が多く残っています。この飾り方や押絵雛の題材に、人々は祈りを込めました。

## 12 七夕人形

月遅れの松本の七夕には、七夕人形が家の軒下などに飾られる、現在では非常に珍しい習俗があります。男女一対となっていて、子供の着物や晴れ着、浴衣を着せ掛ける形式のものがあり、お供え物をしておまつりします。“着物が上手く縫えるように”“さらに良い着物が返ってくるように”“子供の無事な成長”などの願いを込めています。中国から伝わった乞巧奠に倣ったものと考えられ、七夕人形は華やかでわかりやすく、牽牛・織女のロマンチックで一途な想いを応援しながら、自らの祈りを込められる偶像です。

牽牛と織女の渡し役として足長という人形もいっしょに飾られるのですが、これこそまさに牽牛と織女を逢わせてやりたいと願う、人々の祈りが重ねられた偶像といえます。

また、同じ七夕人形でも、盆行事のはじまりにある菰の習俗を伝えるものがあります。人の姿をかたどって、穢れを背負わせて流してしまうもの、五色の紙で作った人がたを毎年貼り重ねていくもの、紙で作られたものに大別されます。



七夕人形 紙びな形式（重要有形民俗文化財）

### 13 道祖神

祈りの対象は、暮らしを営む村落共同体に係る事象にも及びます。松本市域および近隣には、『松本まるごとウォッチングQ & A』によると、約600体の道祖神碑があります。農民の願いによって江戸時代から建立された、ムラの境を守る神といわれます。

道祖神碑には、「道祖神」の文字が彫られた文字碑と、神像が彫られた像碑があります。像碑には単体のもの、男女双体のものがあり、僧や神をかたどっています。“道の神様”“疫病・悪霊除けの神様”“夫婦の神様”“縁結びの神様”“性の神様”“安産の神様”“子供の神様”“農作物の神様”など...ふうっ、大忙しの神様です。

道祖神碑のモチーフを祈りの偶像として捉えるとき、人々の祈りの多様性からみると、それぞれが持つ神のイメージは、どう考えても十人十色ありそうですが、ムラ内ではどのようにして碑のモチーフを一つの像に統一することが出来たのでしょうか。なんらかの折り合いがなくては、とても一体の道祖神碑だけでは足りないのでは...。あるいは、モチーフがどうであれ、祈りたいことを祈る、ただシンプルにそれだけなのでしょうか。



道祖神木像（重要有形民俗文化財）

マチにはマチの道祖神が作られていて、碑ではなく、木像が受け継がれてきました。こちらは持ち歩きが可能で、城下町界限では子供たちが道祖神木像を街道端で祠にまつて飾り、既出のオンマラさま（男性の性器をかたどった木製の像）をいっしょに飾り、囃したてました。夜には通行人から賽銭をもらうために縄や紐をつけた道祖神を引っ張って往来へ投げ出したりしました。

### 14 その後の道祖神

昭和から平成にかけて、数は少ないですが、今日でも道祖神碑が建立されています。碑を建てる本来の意味を残しつつ、時代を反映して交通安全の願いが加わったり、松本を象徴するモニュメントであっ



道祖神の色塗りをする子供たち（島立永田）

たり（もともと道標の役目を負ったものもありましたが）、ユニークなモチーフであったりします。

そして、今なお道祖神に関する多様な祭りがマチやムラで行われています。小正月の火祭りである三九郎、道祖神場にオンパシラ（オンベ）を立てるおんべ祭り、こと八日（2月8日）に行われる道祖神の祭りなどがあります。



道祖神木像も一緒に三九郎（芳川小屋）

### 15 平成の祈り

この他にも市域には松本ダルマ、蚕玉様、七福神、絵馬など、祈願をかける偶像はさまざまな形で存在しています。込められる願いや形は変わっても、私たちが祈る限り、身近に“偶像”は在り続けるに違いありません。

昭和天皇崩御のとき、私は偶然海外にいました。テレビのニュース番組で昭和の終わりを知り、その数日後、新しい年号は“Peace Achievement”だとの報道がありました。“平成”という年号名だと知った時、とてもよい名だと思いました。その名の示すとおり、人々の祈りが、ここで結実する時代となることを願い、この『祈りと偶像』展の開催を迎えたいと思います。

（博物館 学芸員 福富佳織）

## 博物館100年モノ語り・その2

はじめに

シリーズ「博物館100年モノ語り」、第2回は博物館と同様、今年で100周年を迎えるできごととして、中央東線の全通について触れます。

### 1 中央線経由松本 - 東京間開通

明治39年(1906)6月11日、この日ようやく中央(東)線の岡谷 - 塩尻間が開通し、はじめて現在と同じルートで松本と東京が結ばれました。

松本ではすでにこの4年前、明治35年には篠ノ井線開通により開駅を果たしていますので、鉄道開通に対する人々の歓喜も一段落し、このできごとはあまり大きな関心事ではなかったのかもしれない。

しかし、長野県の南北が鉄道で結ばれ、長野を経ずして松本から東京に直行できたことは、それまでの鉄道招致運動の経過を考えると非常に意義深く、その後の松本や長野県の産業の発展への寄与をみても、歴史上画期的なことととらえることができます。

### 2 悲願の中央線開通

明治の中ごろ、列島の東西を結ぶ幹線鉄道敷設計画の東海道ルート決定と中山道ルートの消滅、信越線開通による長野駅開業(明治21年・1888)など、政府の鉄道政策に翻弄され、松本や中南信地方の人々の悲願だった鉄道敷設の夢は遠いものとなっていました。

ならば自分たちの手で鉄道敷設をと立ち上がった市川量造らによる甲信鉄道敷設計画などの動きを経て、明治25年、ようやく国による中央線建設計画が再決定し、同時に篠ノ井線敷設計画も浮上しました。

こうした経過から、結果的に篠ノ井線が先に開通したとはいえ、松本地方の人々にとっては中央線の全通こそ本来の願いが叶ったできごとともいえましょう。



篠ノ井線開通の記念盃と明治時代の切符

### 3 中央線開通が与えたもの

篠ノ井線開通まで、松本から東京をめざす人々は上田駅まで徒歩で向かわねばなりませんでした。今ではとても考えられないことです。それが松本駅の開業により、直接汽車で行くことができるようになりました。当時松本 - 長野間は平均2時間30分、長野 - 上野間は9時間ほどかかり、乗り継ぎ時間を除いて11時間30分以上を必要としました。

しかし、中央東線の開通は劇的とはいえなくても時間短縮に大きく貢献し、松本 - 新宿間は乗り換えなしに10時間30分で結ばれることとなりました。

ところで、当時は基幹産業として製糸業が隆盛していましたが、鉄道開通、とりわけ中央東線の全通は、器械製糸工場には欠かせない燃料 = 石炭の供給を大きく向上させました。特に鉄道開通以前から諏訪地方の工場に供給されていた東筑摩郡の西条炭の輸送が増強され、さらに明治44年(1911)の中央西線全通で九州炭の供給も可能となりました。また、原料繭の仕入れ範囲も全国に広がり、生産品の生糸の輸送も馬車から鉄道へと比重が移っていったのです。

中央線の全通により松本駅の乗降客数と貨物取扱量の記録は飛躍的に伸びており、東西南北の鉄道網完成が産業や人の動きに大きな影響を与えたことを如実に示しています。

### おわりに - 博物館に眠る鉄道関連の資料

鉄道とともに100年の時を刻んできた市立博物館には、松本の鉄道史資料も少なくなく、現在、写真、時刻表、路線図、鉄道用品など250点以上を収蔵しています。中でも市川量造による甲信鉄道原稿、松本駅建築列車到着歓迎会写真、松本駅開業の記念盃、乗車券など、明治期のものは特に重要な資料です。

「博物館100年モノ語り展」ではこうした鉄道史資料についても実際に見ていただきたいと思います。

(博物館 学芸員 竹原 学)

#### 《参考文献》

『図説・松本の歴史』下 郷土出版社 1986

『松本市史』第2巻 歴史編 松本市 1995 ほか



篠ノ井線松本停車場建築列車歓迎会写真(明治35年)

## 「松本まるごと博物館コーナー」を博物館各施設に開設

博物館では「松本まるごと博物館構想」に基づき、松本市立博物館と主な附属施設を対象に、市域の博物館施設や文化財など「松本まるごと博物館」の主だった展示物の案内図、年間行事案内を掲示し、見学（散策）の手助けとなる『松本まるごと博物館マップ』、松本まるごと博物館各施設のリーフレットを一つに収めたフォルダを設置しました。

このコーナーに来れば、広大な「松本まるごと博物館」のどこにどんなモノがあるかが一目でわかります。また、見学の一助となる地図や博物館のリーフレットを手に入れることができ、市域に点在する博物館があなたのナビゲーターとなります。

さあ皆さん、地図を片手に発見の旅に出かけませんか？

（博物館 学芸員 竹原 学）



旧開智学校校舎内での設置例



統一デザインのリーフレットを収めたフォルダ

## 松本市立博物館に新しく仲間入り

### 『旧制高等学校記念館』

あがたの森公園にある旧制高等学校記念館が、今年4月から松本市立博物館の附属施設に仲間入りしました。

あがたの森の地は、大正8年（1919）に開設された旧制松本高等学校（旧松高）の跡地として知られ、その校舎は戦後も信州大学文理学部として引きつがれました。信大文理が長野市へ移転後は市民や同窓会の皆さんの熱意により保存され、昭和56年には県宝の指定を受けました。以来、あがたの森文化会館の名称でコミュニティ活動や生涯学習の拠点として、多くの皆さんに利用されてきましたが、このほど重要文化財指定に向けた保存修理が完了し、守るだけでなく活用される文化財としての価値を高めました。

旧制高等学校記念館のあゆみは、校舎が県宝指定を受けた年、昭和56年（1981）の7月にさかのぼります。当初は「旧制松本高等学校記念館」として旧松高の資料を中心に収集・展示が行われ、校舎の一室に開設されました。その後、全国の旧制高等学校を対象に資料収集の範囲を広げ、その保全を目的と

して平成5年7月に現在の建物が新築され「旧制高等学校記念館」となったのです。

館内には全国にあった41校の旧制高等学校の資料を展示しており、旧松高に隣接してあった思誠寮の一室を再現したコーナーもあります。また、旧松高出身の文学者とその著作や、学生たちが親しんだ



往年の外国映画も紹介されています。

市民の皆さんに利用されてきた旧松高校舎と、その資料を大切に受け継いできた記念館、と

もにまるごと博物館の仲間として、皆さんのご来館をおまちしております。

（考古博物館 学芸員 山田一恵）

## ひとの動き

4月1日付で、次のように職員の転入・転出等がありました。( )内は所属。

**転入 よろしくお願ひします。**

博物館長 小松正直  
 課長補佐 熊谷康治 (旧制高等学校記念館長・併任)  
 課長補佐 塩崎 裕 (考古博物館長)  
 係 長 松田佳子 (本館)  
 主 査 関 政雄 (本館)  
 主 事 小澤弥生 (旧制高等学校記念館)  
 事務員 望月 優 (馬場家住宅)  
 嘱 託 一ノ瀬幸治 (本館)  
 嘱 託 上條明彦 (旧開智学校)  
 嘱 託 小原 剛 (はかり資料館)  
 嘱 託 石井 学 (旧制高等学校記念館)  
 臨 時 吉村由美子 (本館)  
 臨 時 奥村亜矢子 (本館)  
 臨 時 清澤一善 (本館)  
 臨 時 松岡里佳 (民芸館)  
 臨 時 西村奈美 (空穂記念館)  
 臨 時 細野直枝 (歴史の里)

**課内異動 職場がかわりました。**

臨 時 小林雄介 (本館 旧開智学校嘱託)  
 臨 時 今福ゆかり (本館 旧制高等学校記念館嘱託)

**転出 お世話になりました。**

博物館長 松原一雄 (退職)  
 係 長 川上百合子 (考古博物館長 納税課)  
 主 査 横山泰基 (本館 文化財課係長)  
 主 事 竹内祥泰 (本館 市民税課)  
 主 事 百瀬将明 (馬場家住宅 保険課)  
 嘱 託 山岸弥生 (本館・退職)  
 嘱 託 遠藤健夫 (旧開智学校・退職)  
 嘱 託 須田明日香 (旧開智学校・退職)  
 嘱 託 近藤裕彦 (はかり資料館・退職)  
 嘱 託 濱 博仁 (歴史の里館長・退職)  
 臨 時 平林哲史 (本館・退職)  
 臨 時 笠原文香 (本館 公設卸売市場)  
 臨 時 赤澤栄里子 (空穂記念館 松本城管理事務所)  
 臨 時 萩原京子 (歴史の里 環境清掃課)

## ガイドコーナー はんでんぼく

旧開智学校から ☎0263-32-5725

## 「開智学校のうらがわ展」

期 間 7 / 28 (金) まで

時計博物館から ☎0263-36-0969

## 「山内コレクション展Ⅰ 草双紙の世界」

期 間 5 / 28 (日) まで

## 「山内コレクション展Ⅱ 時計の魅力」

期 間 6 / 3 (土) ~ 7 / 2 (日)

## 時の記念日「古時計説明会」

日 時 6 / 10 (土) 11 (日)

重文馬場家住宅から ☎0263-85-5070

## 「写真でみる鉢伏山展」

期 間 5 / 27 (土) ~ 6 / 25 (日)

## 「お茶席の会」

日 時 5 / 21 (日) 裏千家 午前10時~正午

6 / 25 (日) 表千家 午前10時~正午

参加費 無料 (但し入館料300円が必要)

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

## 「空穂茶会」

日 時 5 / 14 (日) 午前10時~ 参加費 1,500円

## 「第1回短歌講座」

日 時 6 / 11 (日) 午後1時40分~

参加費 1,500円

## 「親と子どもの短歌教室」

日 時 6 / 17 (土) 午前10時10分~

## 「短歌指導法研修会」

日 時 6 / 17 (土) 午後1時~

## 「空穂囲碁教室」

日 時 6 / 24 (土) 午前10時10分~

## あとがき

市立博物館と考古博物館は節目の年を迎え、多くの市民の皆さんに支えていただいていたのだと実感します。これからも皆さんに喜ばれる博物館であるようにと、今回の特別展に願いを込めました。皆さんのご来館をお待ちしています。

(H.S)

松本民芸館から ☎0263-33-1569

## 「信州のやきもの展」

期 間 6 / 11 (日) まで

## 「布ぞりづくり」

日 時 5 / 14 (日) 午前10時~午後3時

定 員 15名 (要申込・先着順)

参加費 1,800円 (入館料・材料費込み)

講 師 秋山啓子氏

はかり資料館から ☎0263-36-1191

## 「はかりつくり講座」

日 時 5 / 20 (土)

梓川アカデミア館から ☎0263-78-5000

## 「上野玄春遺作展」

期 間 5 / 21 (日) まで

## 「“リンゴのある風景” フォトコンテスト写真展」

期 間 5 / 24 (水) ~ 30 (火)

四賀化石館から ☎0263-64-3900

## 「化石見学と化石採集」

日 時 6 / 10 (土)

定 員 25名 (要申込・先着順)

参加費 大人1,300円 小人1,100円

## 「松本市歴史の里」工事休館のお知らせ

4月1日(土)~平成19年4月27日(金)

☎0263-47-4515

あなたと博物館 No.144

発行年月日 平成18年5月1日

編集・発行 松本市立博物館

〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133

URL : <http://www.city.matsumoto.nagano.jp>

e-mail : [mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp](mailto:mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp)